

2023 年度 事業報告書

自 2023 年 4 月 1 日

至 2024 年 3 月 31 日

公益財団法人 全日本柔道連盟

I 法人の概況

1. 沿革

創立	昭和 24 年 5 月 6 日
法人格取得	昭和 63 年 6 月 8 日
日本体育協会（現 日本スポーツ協会）加盟	昭和 24 年 10 月 26 日
国際柔道連盟加盟	昭和 27 年 12 月 9 日
アジア柔道連盟加盟	昭和 31 年 5 月 2 日
日本オリンピック委員会加盟	平成元年 8 月 7 日
公益財団法人への移行	平成 24 年 4 月 1 日

2. 目的

この法人は、わが国における柔道競技界を統轄し代表する団体として、嘉納治五郎師範によって創設された柔道（以下、単に「柔道」という。）の普及および振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

3. 事業内容

- （1）柔道に関する競技者および指導者の育成
- （2）柔道に関する競技会および講習会の開催
- （3）柔道用具の公認および検定
- （4）柔道に関する国際交流および国際貢献
- （5）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 会員の状況（2024年3月31日現在）

区分		2023 年度	2022 年度	増減
団体	チーム数	7,352	7,524	-172 (97.7%)
個人	役員等	17,596	18,152	-556 (96.9%)
	社会人	24,924	24,403	521 (102.1%)
	大学生	10,090	10,093	-3 (100%)
	高校生	16,251	16,858	-607 (96.4%)
	中学生	26,703	26,799	-96 (99.6%)
	小学生	27,494	26,408	1,086 (104.1%)
	未就学児	1,499	1,345	154 (111.4%)
	休会員	2	2	0 (100%)
	登録者計	124,559	124,060	499 (100.4%)

5. 主たる事務所、従たる事務所の状況

主たる事務所 東京都文京区春日 1 丁目 16 番 30 号 講道館本館 5 階
従たる事務所 無し

6. 役員等に関する事項 (2024年3月31日現在)

役職	氏名	常勤・非常勤の別
会長 (代表理事)	中村 真一	非常勤
副会長	石井 淳子	非常勤
副会長	西田 孝宏	非常勤
副会長兼専務理事 (業務執行理事)	中里 壮也	常勤
副会長	冲永 佳史	非常勤
常務理事	松井 勲	非常勤
常務理事	大迫 明伸	常勤
常務理事	小野山 修平	非常勤
常務理事 事務局長	高山 健	常勤
常務理事	本郷 亮	非常勤
理事	山本 国博	非常勤
理事	黒田 一彦	非常勤
理事	鳥居 吉二	非常勤
理事	八本木 通秋	非常勤
理事	辻本 修	非常勤
理事	正木 嘉美	非常勤
理事	山藤 哲夫	非常勤
理事	寛藤 次男	非常勤
理事	小形 健二	非常勤
理事	中村 佳央	非常勤
理事	兒玉 篤	非常勤
理事	神谷 兼正	非常勤
理事	天野 玲子	非常勤
理事	高村 江津子	非常勤
理事	渡辺 涼子	非常勤
理事	塗師 純子	非常勤
理事	松田 基子	非常勤
理事	天野 安喜子	非常勤
理事	中村 淳子	非常勤
監事	田中 秀一郎	非常勤
監事	近藤 智子	非常勤
監事	北村 康央	非常勤

女性理事 29名中8名 (27.6%)

スポーツ団体ガバナンスコードで定義する外部理事 29名中5名 (17.2%)

7. 職員に関する事項 (2024年3月31日現在)

職員数		前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男性	23	+1	44.4歳	8.7年
女性	18	+3	40.8歳	6.4年
合計	41	+4	43.2歳	7.7年

8. 許認可に関する事項

変更なし

Ⅱ 事業の状況

1. 概要

(1) 5月8日に新型コロナウイルスは「5類感染症」に移行され、各種事業は計画通りに展開されたが、会員登録者数は124,559名にとどまり前年度並みの水準となった。

一方で、財政の大きな柱である年間スポンサーは30社で合計3億8,100万円となり、前年度から5,000万円の増額となった。

(2) 選手強化事業においては、5月にカタール・ドーハで開催された世界柔道選手権大会を最大目標に取り組み、個人戦・男女混合団体戦で計6個の金メダルを獲得し、当初の目標は達成することができた。

また、ジュニア世代の強化においては、コロナ禍で停滞していた強化活動も順調に実施され、10月にポルトガル・オディベラスで開催された世界ジュニア選手権大会では、男女混合団体戦を含め10個の金メダルを獲得し、世界ジュニア選手権大会では過去最高の成績を残すことができた。

(3) 普及事業においては、6月に長期育成指針を策定し、全国各地への普及および実践に向けた活動を展開した。この指針では、柔道実践者のみならず広く国民を対象として、柔道を通して心身の健全な生涯発達が実現することを目的としており、具体的な普及事業は、各世代及びレベルに合わせた事業を立ち上げ、事務局が中心となって各委員会及び各都道府県と連携して取り組んだ。なお、ブランディング戦略推進特別委員会は、当初の目的を達成したため12月末をもって解散し、1月からは長期育成指針の浸透の中核を担う革新的パスウェイ特別委員会を発足した。

(4) 競技会の開催事業においては、日本代表選手を選考するトップアスリートの大会から小学生の普及を目的とした大会まで、当初の計画通り18の国内主催大会を開催し成功させた。また、12月には国際柔道連盟主催のグランドスラム東京の運営に当たり、パリオリンピックの前年であり、前年度大会を大幅に上回る84か国・地域から506名が参加して国際大会らしい盛り上がりを見せた。

講習会の開催事業においては、指導者や審判員向けに従来からのオンライン及び対面式での講習会や研修会を実施する一方で、各資格更新のための教材動画を作成し、2024年度からオンデマンド方式を導入できる体制を整備した。また、希望のあった都道府県に対してはコンプライアンスや安全指導講習の講師を派遣して、柔道界におけるインテグリティ向上に務めた。

(5) その他事業においては、「柔道における女性の活躍プラン」に基づくジェンダー平等の実現にむけた事業、障害を持つ方々への柔道を通じた社会復帰支援事業、国際交流や途上国への支援物資を通じた国際貢献事業等、柔道を通じたSDGsの達成に向けた各種事業を実施した。

また、公式ホームページや各種SNS、YouTube公式チャンネル等を活用して効果的に情報発信を行い、柔道関係者だけではなく幅広い層へ柔道の魅力を発信するためのPR活動を行った。

2. 会議の開催

(1) 評議員会

第1回（定時）

開催日時 2023年6月28日（水）15時00分～16時40分
開催場所 講道館本館401会議室およびオンライン上のWEB会議方式
招 集 理事会の決議により会長が招集（定款第19条第1項）
決議事項 第1号議案 第11期決算の承認

第2回（臨時）

日 時 2023年12月20日（水）15時00分～16時00分
開催場所 講道館本館401会議室およびオンライン上のWEB会議方式
招 集 理事会の決議により会長が招集（定款第19条第1項）
決議事項 なし

(2) 理事会

第1回（定時）

日 時 2023年6月9日（金）15時00分～16時45分
開催場所 講道館本館401会議室およびオンライン上のWEB会議方式
決議事項 第1号議案 2022年度事業報告の承認
第2号議案 第11期決算の承認
第3号議案 次期役員候補者の承認
第4号議案 評議員候補者の承認
第5号議案 長期育成指針の策定
第6号議案 柔道競技に関わる活動に関する見舞金支給規程の改正
第7号議案 強化事業における柔道衣右胸への広告掲出の承認
第8号議案 世界形選手権大会（23歳未満部門/U23）への全日本学生柔道連盟（学柔連）派遣の承認
第9号議案 2023年度第1回評議員会（定時評議員会）の招集

第2回（臨時）

日 時 2023年6月28日（水）17時00分～17時40分
開催場所 講道館新館2階教室及びWEB会議
決議事項 第1号議案 会長（代表理事）の選定
第2号議案 副会長の選定
第3号議案 専務理事（業務執行理事）の選定
第4号議案 常務理事の選定
第5号議案 専門委員会及び経営管理委員会委員長の選任
第6号議案 常務理事会メンバーの承認
第7号議案 常勤役員報酬の承認
第8号議案 名誉会長の委嘱
第9号議案 特別顧問の委嘱
第10号議案 顧問及び参与の委嘱

第3回（定時）

日 時	2023年10月4日（水）15時00分～16時20分
開催場所	講道館本館4階 全柔連401会議室及びオンライン会議
決議事項	第1号議案 革新的パスイ特別委員会の設置 第2号議案 革新的パスイ特別委員会委員長・副委員長の選任 第3号議案 2023年度修正予算の承認 第4号議案 登録規程の改正 第5号議案 指導者養成講習会受講資格の緩和 第6号議案 指導者資格更新ポイントに係る救済措置の承認

第4回（臨時）

日 時	2023年12月8日（金）15時00分から15時50分
開催場所	講道館本館4階 全柔連401会議室及びオンライン会議
決議事項	第1号議案 ブランディング戦略推進特別委員会の設置終了 第2号議案 次期専門委員会・特別委員会 委員長及び副委員長の選任 第3号議案 次期経営管理委員会 委員長及び副委員長の選任 第4号議案 障害補償・見舞金制度規程の改正 第5号議案 公認審判員規程の改正 第6号議案 国内における「少年大会特別規程」の改正 第7号議案 公認指導者資格制度規程の改正 第8号議案 公認転倒外傷予防指導員資格制度規程の制定 第9号議案 2023年度第2回評議員会（臨時評議員会）の招集

第5回（定時）

日 時	2024年3月13日（水）15時00分から16時00分
開催場所	講道館本館4階 全柔連401会議室及びオンライン会議
決議事項	第1号議案 2024年度事業計画の承認 第2号議案 2024年度収支予算の承認 第3号議案 重大事故総合対策委員会 副委員長の選任 第4号議案 全国少年柔道協議会中央委員会 委員長及び副委員長の選任 第5号議案 役員等の旅費および業務手当等支給規程の改正 第6号議案 2024年優秀指導者（団体）表彰受賞者の承認 第7号議案 その他 (1) 強化システムに関する規程の改正

（3）評議員選定委員会

第1回（決議の省略）

決議があったものとみなされた日 2023年6月15日（木）

決議事項	第1号議案 評議員選任の件 (1) 前田 肇 候補者の選任 (2) 御嶽知昭 候補者の選任 (3) 古川隆士 候補者の選任
------	--

- (4) 矢野賢悟 候補者の選任
- (5) 薪谷 翠 候補者の選任
- (6) 奈木宏昌 候補者の選任

(4) 加盟団体会長会議

- 日 時 2023年11月15日(水) 14時00分～15時10分
- 開催場所 講道館本館401会議室およびオンライン上のWEB会議方式
- 議 題 (1) 協議事項
- ①長期育成指針について
 - (2) 報告事項
 - ①2023年度登録状況
 - ②医科学委員の各都道府県での活動状況
 - ③第6回全国安全指導員連絡会の開催について
 - ④2023年度各都道府県における女性役員の就任状況
 - ⑤2023年度各都道府県における女子委員会等の設置状況
 - ⑥女子柔道意見交換会の開催
 - ⑦普及事業 特設ワーキンググループ

3. 専門委員会等活動報告

(1) 総務委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 4回（5月30日、9月15日、11月10日、2月15日）

【活動報告】

1. 2022年度事業報告・決算及び2024年度事業計画・収支予算

第1回総務委員会において、2022年度の法人全体の事業報告概要をまとめ、決算の適正性を確認した上で、理事会に付議した。

また、第4回総務委員会においては、2024年度の法人全体の事業計画概要をまとめ、収支予算の適正性を確認した上で、理事会に付議した。

2. 規程類の整備

(1) 登録規程の改正

休会が認定されると休会期間中は登録費が免除され各資格も休止状態となったが、各資格の規程が改正され、活動再開後に要件を満たせば資格が再有効化されることとなったため、休会員制度を廃止することとした。それに伴い、登録規程の関連する条文も改正した。

(2) 柔道競技に関わる活動に関する見舞金支給規程の改正

現行の規程における制度の根本にかかわる部分を「障害補償・見舞金制度規程」、見舞金の支給手続きにかかわる部分を「障害補償・見舞金制度における見舞金の支給額及び請求手続き等に関する規則」に分けて整理し、あわせて休会員制度の廃止など、現行の制度に合わせて文言を修正した。

(3) 役員等の旅費及び業務手当等支給規程の改正

昨今の社会情勢や本連盟の財務状況等を鑑み、各費用や諸手当の支給基準を見直すこととした。主には、会議日当のうち8,000円（源泉徴収税別）を支給していた会議は5,000円（源泉徴収税別）とし、航空券の手配においては往復とも早期割引運賃で手配することを原則とし、出張手当のうち業務の無い日の手当は半額として、2024年4月1日から施行することとした。

3. スポーツ団体ガバナンスコードへの対応

当年度における各規定遵守状況の自己説明をホームページ上で公表するにあたり、本委員会で自己説明の正確性、適正性を確認し、理事会に報告した上で、ホームページに公表する手続きを踏んだ。また、9月29日付で改訂された変更箇所を確認し、統轄団体による説明会後に対応策を検討することとした。

4. 登録関係事業

(1) 当年度の登録者数は124,559名となり、前年度から499名の増加となった。各種会議で随時、登録状況を報告し、登録人口増加の協力要請を行った。

(2) 登録システムの新機能追加、リニューアルに伴う説明会を全国4か所（北海道・東京・大阪・福岡）で開催し、各都道府県柔道連盟（協会）登録実務担当者への周知を図った。

また、広報誌「まいんど」各号に登録制度、登録システムについての情報を掲載し、登録会員への周知を図った。

(2) 大会事業委員会

【会議の開催】

1. 大会事業委員会 1回 (5月25日)
2. 委員長副委員長会議 1回 (5月25日)

【活動報告】

1. 国内大会運営規程改正

前年度に引き続き「大会運営ガイドブック 2023」および「大会係員競技資料作成のためのガイドライン」の作成を進め、2023年12月をもって完成となった。

2. 国際大会の運営

下記の2大会において、国際柔道連盟（IJF）等の規則に則った競技運営を行った。

- ① グランドスラム東京 (12月2日～3日・東京体育館) 84か国 506名出場
- ② 日本ベテランズ国際 (1月20日～21日・講道館) 18か国 個人戦652名/形30組出場

3. 国内大会の運営

昨年度まで実施していた新型コロナウイルス感染症対策のPCR検査や健康記録表の確認、畳の消毒などを本年度から廃止し、新型コロナウイルス禍以前の大会運営を実施した。

下記の18主催大会において、「全柔連大会運営規程」に則った運営及び指導を行い、大会を成功させると共に、国内における大会運営基準統一化を図った。

また、本連盟主催大会においては、選手に帯同する指導者は、原則としてAまたはB指導員資格所持者とし、エントリー時に資格の確認ができた指導者のみに大会IDカードを発行した。柔道衣検査においては、新たに変更となった柔道衣規格での大会実施を徐々に行い、来年度以降の柔道衣検査に向けて柔道衣検査マニュアルの作成も進めた。

- ① 全日本選抜柔道体重別選手権大会 (4月1日～2日・福岡国際センター)
- ② 皇后盃全日本女子柔道選手権大会 (4月23日・横浜武道館)
- ③ 全日本柔道選手権大会 (4月29日・日本武道館)
- ④ 全国少年柔道大会 (5月4日～5日・講道館)
- ⑤ 全日本柔道形競技大会 (6月10日・講道館)
- ⑥ 全日本少年少女武道(柔道)錬成大会 (7月30日・日本武道館)
- ⑦ 全国高等学校定時制通信制柔道大会 (8月6日・講道館)
- ⑧ 全国高等学校柔道大会 (8月8日～12日・北海きたえーる)
- ⑨ 全国中学校柔道大会 (8月17日～20日・アミノバリューホール)
- ⑩ 全日本小学生柔道育成プロジェクト (8月28日・横浜武道館)
- ⑪ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 (9月9日～10日・埼玉県立武道館)
- ⑫ マルちゃん杯全日本少年柔道大会 (9月17日・東京武道館)
- ⑬ 国民体育大会柔道競技 (10月14日～16日・西原商会アリーナ)
- ⑭ 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 (10月4日～5日・千葉ポートアリーナ)
- ⑮ 文武両道杯全国高校柔道大会 (12月17日・講道館)
- ⑯ 全日本シニア柔道体重別選手権大会 (2月24日～25日・大浜だいしんアリーナ)
- ⑰ 全国高等学校柔道選手権大会 (3月19日～20日・日本武道館)
- ⑱ 柔道マガジン杯全国中学生柔道大会 (3月23日～24日・横浜武道館)

(3) 広報マーケティング委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 1回 (1月24日)
2. まいんど部会 4回 (6月20日、9月27日、12月20日、3月14日)

【活動報告】

1. マーケティング

ブランディング戦略推進特別委員会と連携し、柔道の提供価値の整理ならびに連盟協賛の価値向上の取り組みを行うとともに、柔道の受身をプログラム化した転び方教室などスポンサーとのタイアップ事業を企画、実行し、大会等での広告露出以外の部分でもアプローチを続けた。2023年度の協賛社数は前年度の28社から30社へ増加となり、協賛収益は2022年度比で約15%増加した。

2. データ蓄積・開示

(1) 試合結果をセイコースポーツリンクのシステムを通じ、パソコン、スマートフォン向けに速報及び詳細結果それぞれのコンテンツを用意し提供した。試合会場においてもモニターを設置し、選手関係者、観客等が試合進行を把握できるように以下の大会で運用した。

- ①全日本選抜柔道体重別選手権大会
- ②皇后盃全日本女子柔道選手権大会
- ③全日本柔道選手権大会
- ④全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
- ⑤講道館杯全日本柔道体重別選手権大会
- ⑥全日本シニア柔道体重別選手権大会

(2) セイコースポーツリンク上に協賛企業のバナー掲出機能を追加し、以下の大会で提供した。

- ①全日本選抜柔道体重別選手権大会
- ②講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

3. 「まいんど」発行等

広報誌「まいんど」を4回(5月、9月、11月、2月)刊行した。発行部数は毎号約4万部であり、登録団体や関係各所へ発送し、柔道の魅力を発信した。また、毎号をデジタルブック化したうえで連盟ホームページ上へ掲載し、毎号約1,000件の閲覧があった。

4. 連盟ホームページを用いた情報発信、保守・運用

連盟ホームページを一般利用者により分かりやすいよう更新するとともに、柔道のメディアバリエーション向上のため、公式YouTubeチャンネル「全柔連TV」を中心にデジタルコンテンツの発信を行った。実施にあたってはブランディング戦略推進特別委員会と連携し、クオリティ向上及び発信頻度の最適化に努め、X(旧Twitter)、Facebook、Instagramのアカウントと連動させ、プロモーションを行った。結果として全柔連TVのチャンネル登録者数は22%増加(約6.1万人)し、総再生回数は約2,800万回に達した。動画の大部分は主催大会の試合映像であり、主催大会ではスポンサーの社名・ロゴ入りの広告ボードを掲出しているため、スポンサー露出増、協賛価値向上につながり、マーケティング面でも有用に機能した。

(4) 教育普及・MIND委員会

【会議の開催】

1. 教育普及・MIND委員会 会議 1回 (12月11日)
2. 教育普及部会 2回 (7月14日、3月27日)
3. 柔道MINDプロジェクト部会 2回 (7月12日、2月21日)
4. 形部会 2回 (6月10日、2月18日)
5. 視覚障がい者・ろう者柔道連携部会 1回 (2月6日)
6. 知的障がい者柔道振興部会 2回 (5月22日、10月27日)

【活動報告】

1. 教育普及部会
 - (1) 柔道教室の開催及び日本武道館主催事業の講師選定
本連盟主催柔道教室を全国6か所で開催した。また、日本武道館主催地方青少年錬成大会(6か所)・地域社会指導者研修会(5か所)の講師を選考した。
 - (2) 派遣講師研修会の開催
3月2日に講道館において対面、オンラインを併用して開催した。2024年度の実施方法、場所については部会で検討。
 - (3) 柔道教育現場(海外)の実態調査
オンラインで海外指導者との意見交換会を実施した。
 - (4) 大会イベントの開催
鹿児島県で開催された国民体育大会柔道競技において30分のイベントを実施した。井上康生氏と濱田尚里氏が講師で参加して、地元の小学生と乱取などで交流をした。
2. 柔道MINDプロジェクト部会
 - (1) 部会
部会を2回開催し、MIND賞の都道府県への依頼、推薦書の様式、選考方法について審議した。
 - (2) MIND賞の選考
部会において小学生15名、中学生17名の計32名のMIND賞受賞者を選考し、2024年4月21日の皇后盃全日本女子柔道選手権大会において代表2名を表彰した。
 - (3) 柔道MIND講話
柔道MIND講話10回分の説明文を作成し、イラストとともに連盟ホームページに掲載する準備を進めた。
3. 形部会
 - (1) 世界柔道形選手権大会派遣
6月に講道館で行われた全日本柔道形競技大会で優勝した組の中から代表3組を選考し、10月28日、29日にアラブ首長国連邦・アブダビで開催された世界柔道形選手権大会へ派遣した。結果は、派遣した3組(投の形、固の形、柔の形)ともに優勝した。
 - (2) 世界柔道形選手権大会代表 個別分散合宿
9月と10月に世界柔道形選手権大会代表組の練習拠点に形部会員を講師として派遣し、本番に向けた個別合宿を実施した。

(3) 全日本形合宿

2月18日に講道館において全日本形合宿を開催した。5種目の形強化指定A組、B組、指定組を中心に約80名が参加して、各形午前と午後に各2時間、計4時間の練習を行った。

(4) 形審査員研修会・試験

1月27日、28日の2日間にわたり講道館において形審査員研修会・試験を開催した。

対象は7種の形で、研修会には40名が参加、試験は41名が受験して35名が合格した。

形審査員の有資格者数は、投の形166名、固の形120名、極の形114名、柔の形132名、講道館護身術140名、五の形116名、古式の形94名となった。

4. 視覚障がい者・ろう者柔道連携部会

(1) 2023年国際視覚障害者スポーツ協会（IBSA）柔道グランプリ東京への支援

グランドスラム東京の翌日から開催されたIBSA柔道グランプリ大会東京の大会運営を支援した。

(2) 日本視覚障害者柔道連盟への運営費支援

以下の事業に対して計3,000,000円の費用を支援し、日本視覚障害者柔道連盟から実施報告を受けた。

① IBSA柔道グランプリ大会東京の運営

② 国内強化合宿

③ パリ2024パリ・パラリンピック競技大会出場権獲得のための国際大会派遣（8月IBSAワールドゲームズ・イギリス大会、2月IBSA柔道グランプリ・ハイデルベルグ大会・ドイツ）

(3) 日本ろう者柔道協会への運営費支援

日本ろう者柔道協会へ800,000円の運営費を支援し、国際大会派遣等、事業の実施と運営費の使途の報告を受けた。

5. 知的障がい者柔道振興部会

(1) 第4回全日本ID（知的障がい者）柔道大会の開催

第4回全日本ID柔道大会を11月11日～11月12日の2日間にわたり日本文化大学で開催した。男子選手40名・女子選手14名の計54名が参加した。

11日は出場選手のクラス分けを兼ねた交流練習会を行った。交流練習会における動きや障害の度合いを見て、翌日の大会に向けたクラス分けをした。

12日の大会は、「膝をついて投げない」「巻き込み技の禁止」など、ID柔道特有のルールを導入して行った。参加選手ならびに観戦者にも反則内容や注意事項が伝わりやすいように、審判が指導した内容はマイクを通じて会場全体に伝わるように工夫した。

表彰はクラス別に行い、3位までに入賞できなかった選手にも「敢闘賞」として賞状とメダルを授与した。

(2) ID柔道強化合宿の開催 1回（9月16日～9月18日）

ID柔道強化選手を対象として日本文化大学で強化合宿を開催した。合宿には、ID柔道強化選手17名中13名が参加した。合宿は、選手の強化を図る一方、インテグリティ研修会（オンライン）やアンチ・ドーピング研修会（対面）を実施した。また、選手間の絆や理解が深まるよう練習に遊びを取り入れたり、ミーティング等もおこなった。

(3) 国際知的障がい者スポーツ連盟（Virtus）グローバルゲームズ競技会派遣

6月にパリ・ヴィシーで開催されたVirtusグローバルゲームズ競技会に男女各1名の選手を派

遣した。派遣した選手の結果は、女子・山崎 真江選手が金メダル、男子・五十嵐 尊選手が銅メダルを獲得した。

(4) 普及および啓発活動

①安全指導研究会を10月7日に福岡、10月9日に大阪で開催、講師2名を派遣した。福岡の研究会には51名、大阪の研究会には92名の指導者が参加した。特に、I D柔道独特のルールやI D柔道選手への指導法について講義や実技講習を行った。

②I D柔道紹介事業

I D柔道紹介事業を下記の通り4回実施した。

7月23日 広島県 参加者162名

8月29日 埼玉県 参加者35名

11月5日 千葉県 参加者39名

11月25日 愛知県 参加者50名

柔道未経験者の知的障がい者や保護者及び柔道指導者に対して、I D柔道のこれまでの歴史や活動、安全なI D柔道ルールを紹介した。埼玉県と千葉県では、I D柔道選手も参加して技を披露したり、技を受けたりするなど実演も行った。

(5) その他

2022年4月に日本パラリンピック委員会(J P C)に加盟したことで、日本パラスポーツ協会や日本パラリンピック委員会の行っている助成事業等も積極的に活用し、強化と普及の両面で活動の幅を広げることができた。

(5) 審判委員会

【会議の開催】

1. 審判委員会 3回 (5月26日、11月7日、2月1日)
2. 選考審査部会 4回 (5月19日、7月11日、11月10日、2月22日)
3. 委員長副委員長会議 4回 (4月22日、6月5日、9月8日、1月25日)
4. 全国審判長会議 1回 (9月18日)

【活動報告】

1. Aライセンス審判員試験

本年度も講習会及び学科試験はオンラインで実施し、実技試験は全国各地で開催される地区ジュニア柔道体重別選手権大会のうち下記5ヵ所で実施した。101名が受験して94名が合格した。

- ① 7/2 埼玉県立武道館 試験官 4名 受験者 34名
- ② 7/2 福岡武道館 試験官 3名 受験者 16名
- ③ 7/9 兵庫県立武道館 試験官 4名 受験者 23名
- ④ 7/9 東京武道館 試験官 3名 受験者 15名
- ⑤ 7/9 岡山武道館 試験官 3名 受験者 13名

2. 審判員研修会・講習会

(1) 新型コロナウイルスの影響で取りやめていた、地方審判員講習会への講師派遣を再開した。昨年度同様、S・Aライセンス審判員向けのオンライン講習会は継続実施した。なお、昨年度実施した審判員強化研修会は、Sライセンス審査が終了し入れ替わりのタイミングであったため、今年度は実施しなかった。

- ① 地方審判員講習会 (北海道、東北、北信越、東海、中国) 75名
- ② オンライン審判員講習会 567名受講 (うち受験者 109名) (※昨年 791名)
- ③ 都道府県審判員講習会 (山形・神奈川・山梨・栃木) 80名

(2) 審判講習の教材となる以下の動画を作成した。

- ・少年大会特別規程における寝技で「待て」となるケース
- ・主審の基本動作

(3) I J F 試合審判規程の変更に伴い、昨年度から継続して「柔道審判ライセンスガイド 2023」の作成を進めていたが、2024年パリオリンピックを機に大きく変更されることが予想されるため、冊子は作成せず、PDFデータを連盟ホームページに掲載した。

3. 国際審判員養成

(1) 2024年パリオリンピックに向けての審判員育成のため、I J Fからの指名および帯同審判員として下記の大会に審判員を派遣した。

(指名審判員)

- ① ドーハ世界柔道選手権大会 (5月4日～15日・カタール) 天野安喜子
- ② グランプリ・ドゥシャンベ (5月30日～6月6日・タジキスタン) 天野安喜子、平野弘幸
- ③ グランドスラム・ウランバートル (6月21日～26日・モンゴル) 天野安喜子、平野弘幸
- ④ 国際視覚障害者スポーツ協会 (IBSA) ワールドゲームス (8月20日～27日・イギリス)
平野弘幸
- ⑤ グランドスラム・バクー (9月19日～26日・アゼルバイジャン) 天野安喜子

- ⑥ グランドスラム東京 (12月2日～3日・日本) 天野安喜子、平野弘幸
- ⑦ グランドスラム・パリ (1月31日～2月6日・フランス) 天野安喜子
- ⑧ グランドスラム・バクー (2月13日～20日・アゼルバイジャン) 天野安喜子
- ⑨ グランドスラム・タシケント (2月27日～3月6日・ウズベキスタン) 天野安喜子
- ⑩ グランプリ・アッパー (3月6日～12日) 天野安喜子
- ⑪ グランドスラム・トビリシ (3月19日～26日) 天野安喜子
- ⑫ グランドスラム・アンタルヤ (3月27日～4月2日・トルコ) 平野弘幸

(帯同審判員)

- ① 東アジアユース競技大会 (8月14日～19日・モンゴル) 眞喜志慶治
- ② アジア競技大会 (9月21日～28日・中国) 眞喜志慶治
- ③ アジアオープン香港 (11月23日～27日) 竹澤稔裕・濱岡睦月

- (2) I J F の国際ナショナル審判員試験に2名、コンチネンタル審判員試験に2名を派遣し、全員が合格した。昨年同様、審判技術だけではなく、英語でのコミュニケーション能力を重視した試験であった。

I J Fでは、より若い人材の受験を推奨しているため、人選について国内で検討を継続する。

① 国際ナショナル審判員試験

アジアジュニア・カデ選手権大会 (4月2日～10日・カザフスタン) 竹澤稔裕、鈴木貴士

② コンチネンタル審判員試験

アジアジュニア・カデ選手権大会 (4月2日～10日・カザフスタン) 金子将也、河合美紀

- (3) I J F ワールドツアーに指名されている審判員の技術向上のため、I J F 審判&コーチセミナー (1月18日～23日・ブタペスト) に天野安喜子、眞喜志慶治の2名を派遣した。

4. 審判委員派遣

下記大会へ審判委員を派遣し、ケアシステムを用いて試合の円滑な運営に努めた。

- ① 全日本選抜柔道体重別選手権大会 (4月1日～2日・福岡国際センター)
- ② 皇后盃全日本女子柔道選手権大会 (4月23日・横浜武道館)
- ③ 全日本柔道選手権大会 (4月29日・日本武道館)
- ④ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 (9月9日～10日・埼玉県立武道館)
- ⑤ 国民体育大会柔道競技 (10月14日～16日・鹿児島アリーナ)
- ⑥ 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 (11月4日～5日・千葉ポートアリーナ)
- ⑦ 全日本シニア柔道体重別選手権大会 (2月24日～25日・大浜だいしんアリーナ)

5. 審判員審査

下記大会へ審査員を派遣し、Sライセンス審判員の審判員技量の審査をした。本年度で2年間の審査が終了し、Sライセンス審判員の入れ替わりがあった。

- ① 全日本選抜柔道体重別選手権大会 (4月1日～2日・福岡国際センター)
- ② 皇后盃全日本女子柔道選手権大会 (4月23日・横浜武道館)
- ③ 全日本柔道選手権大会 (4月29日・日本武道館)
- ④ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 (9月9日～10日・埼玉県立武道館)
- ⑤ 国民体育大会柔道競技 (10月14日～16日・鹿児島アリーナ)
- ⑥ 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 (11月4日～5日・千葉ポートアリーナ)

(6) 強化委員会

【会議の開催】

1. 男女合同強化委員会 5回 (8月23日、12月3日、12月7日、1月19日、3月18日)
2. 男子強化委員会 7回 (4月3日、5月31日、6月29日、8月23日、9月11日、11月6日、
2月14日)
3. 女子強化委員会 6回 (4月3日、5月31日、6月29日、8月23日、9月11日、11月6日)

【活動報告】

1. 大会視察および会議等の開催

上記会議の開催および、会議前に強化委員、コーチによる本連盟主催大会視察を実施し、会議における選手選考や審議内容の情報収集をした。強化選手の所属指導者および強化委員、コーチをオンラインでつなぎ、強化連携フォーラムを実施し、次年度の強化方針などの情報共有や意見交換を行った。日本オリンピック委員会(JOC)から委嘱されたコーチ等については、JOCコーチアカデミーを受講させ、コーチとしての資質向上に努めた。

各大会視察、会議等の主な内容は以下のとおり。

- ①4月 全日本選抜柔道体重別選手権大会、皇后盃全日本女子柔道選手権大会、全日本柔道選手権大会を視察。会議では主にワールドユニバーシティゲームズ、世界カデ柔道選手権大会、東アジアユース競技大会代表選考をはじめとする国際大会代表選手選考を決議した他、選手個人が受給する助成金対象者の選考を決議した。
- ②5月 ドーハ世界柔道選手権大会の報告および、それまでの大会結果を踏まえ、2022年から延期となっていたアジア競技大会代表選手選考を決議した。
- ③6月 ドーハ柔道世界選手権大会までの結果を踏まえ、第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)(以下、パリオリンピック)の代表内定選手(4名)を決議した。
- ④8月 8月に派遣したワールドマスターズの結果を受け、パリオリンピックの代表内定選手(6名)を決議した他、グランドスラム東京へパリオリンピック内定選手が出場する際は当該階級選手出場枠を「2」とし、2枠目はジュニア世代の選手を選考する方針が決議された。
- ⑤9月 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会を視察し、会議では主にジュニアを中心とした強化選手選考、10月に開催される世界ジュニア柔道選手権代表選手選考を決議した。
- ⑥11月 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会を視察し、会議では主に強化選手選考、グランドスラム東京をはじめとする国際大会への派遣選手選考を決議した。
- ⑦12月 グランドスラム東京を視察後、パリオリンピックの代表内定選手(3名)を決議した他、1月以降の国際大会派遣選手選考を決議した。
- ⑧1月 主に次年度事業計画、全日本選抜柔道体重別選手権大会出場選手の選考を決議した。
- ⑨2月 グランドスラム・パリの結果を受け、パリオリンピック代表内定選手(1名)を決議した。
- ⑩3月 会議では主に次年度事業計画、4月に香港で開催されるアジア柔道選手権大会代表選手選考が決議された。また、オンラインにて強化連携フォーラムを実施した。
- ⑪年間を通じて選手選考に際し、強化システムに関する規程の改正を審議した。
- ⑫年間を通じて5名のコーチがJOCコーチアカデミーを受講した。

2. 国内大会視察、コーチ会議

各コーチ会議では強化委員会に諮るための選手選考や素案を協議、資料を作成し、強化委員会に対す

る説明等をスムーズに行うことができた。また、講道館杯全日本柔道体重別選手権大会時のコーチ会議では次年度の事業計画素案の検討も行った。

国内大会を視察することで、選手の実状を把握することができ、強化選手選考の基礎資料作成、強化委員会時の説明などに役立てることができた。

コーチ会議、視察大会は以下の通り。

- ①4月1～2日（男女コーチ会議）福岡国際センター他 23名
- ②4月22～23日（女子コーチ会議）横浜武道館 13名
- ③4月29日（男子コーチ会議）日本武道館 10名
- ④6月3～4日（全日本実業柔道個人選手権大会視察）四日市市総合体育館 1名
- ⑤8月8～12日（全国高等学校柔道大会視察）北海きたえーる 2名
- ⑥8月17～20日（全国中学校柔道大会視察）鳴門・アミノバリューホール 2名
- ⑦9月8～10日（男女コーチ会議）埼玉県立武道館他 23名
- ⑧9月30日～10月1日（全日本学生柔道体重別選手権大会視察）日本武道館 1名
- ⑨11月3～5日（男女コーチ会議）千葉ポートアリーナ 23名
- ⑩12月2～3日（男女コーチ会議）味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）、
東京体育館他 23名
- ⑪3月19～20日（全国高等学校柔道選手権大会視察）日本武道館 2名
- ⑫上記の他、年間を通じてオンラインや合宿時等にもコーチ会議を実施した。

3. 国際総合競技大会（JOC派遣大会）への派遣

今年度は2022年度から延期されたワールドユニバーシティゲームズが7月、アジア競技大会が9月に共に中国で開催され、第1回大会が中止となり今回が実質初めての大会開催となる東アジアユース競技大会が8月にモンゴルで開催された。4月、5月の強化委員会で代表選手を選考し、それぞれJOCへ推薦した。

- ①7/29～8/1 ワールドユニバーシティゲームズ（2021/成都）柔道競技 金11、銀3、銅1、他1
個人戦14階級中9階級で金メダル獲得、男女それぞれの団体戦でもアベック優勝した。また、柔道チームは、成績だけでなく、他競技への応援や行動、振る舞いが評価されJOCから団長賞を授与された。

48kg級 吉岡光（東海大学3年）金メダル

52kg級 白石響（環太平洋大学4年）金メダル

57kg級 大森朱莉（帝京大学3年）銀メダル

63kg級 山口葵良梨（国士舘大学4年）金メダル

70kg級 本田万結（東海大学1年）金メダル

78kg級 杉村美寿希（東海大学2年）金メダル

女子団体戦 金メダル

60kg級 中村太樹（国士舘大学3年）金メダル

66kg級 服部辰成（東海大学1年）金メダル

73kg級 石原樹（日本体育大学4年）金メダル

81kg級 北條嘉人（日本大学4年）金メダル

90kg級 中西一生（旭化成）銅メダル

100kg級 グリーンカラニ海斗（日本体育大学4年）銀メダル

100 kg超級 中村雄太（東海大学3年）銀メダル

男子団体戦 金メダル

②8/17～18 第2回東アジアユース競技大会（2023/ウランバートル）柔道競技 金3、銅1

柔道におけるカデの年齢区分（18歳未満）の大会であったため、男女2階級、計4名の選手を派遣し、どの選手も初の国際大会ではあったものの、全員がメダルを獲得することができた。81 kg超級に出場した鍋木選手は日本選手団全体の旗手を務めた。

52 kg級 倉田夏苗（淑徳高校2年）金メダル

63 kg超級 福嶋勇風（敬愛高校2年）銅メダル

66 kg級 三ツ石恵翔（東海大相模高校1年）金メダル

81 kg超級 鍋木克優（足立学園高校2年）金メダル

③9/24～27 第19回アジア競技大会（2022/杭州）柔道競技 金5、銀3、銅2、他5

パリオリンピック内定選手2名を含む選手団を派遣したが、前回2018年ジャカルタ大会比で金メダル獲得数が減少するなど、個人戦では課題の残る大会となったが、最終日の男女混合団体戦では全試合4-0の完全優勝を遂げ、前回大会からの連覇を果たすことができた。

48 kg級 角田夏実（SBC湘南美容クリニック）金メダル

57 kg級 玉置桃（三井住友海上火災保険）銀メダル

63 kg級 高市未来（コマツ）金メダル

70 kg級 田中志歩（JR東日本）金メダル

78 kg級 高山莉加（三井住友海上火災保険）銀メダル

78 kg超級 富田若春（コマツ）銅メダル

66 kg級 田中龍馬（筑波大学4年）金メダル

73 kg級 橋本壮市（パーク24）銀メダル

81 kg級 老野祐平（帝京平成大学4年）銅メダル

男女混合団体戦 金メダル

4. 科学研究事業

強化委員会、男女監督等からの要請に応じて科学的観点よりサポートを行った。また、競技力向上に資する研究、情報提供を行った。主な活動は以下のとおり。

(1) 体力測定

強化選手の測定は、今年度も日程調整が不調に終わり実施できなかった。また、全国中学校柔道大会個人戦出場選手の体力測定も、大会事務局の意向や会場の都合により測定を実施することができなかった。小学生については全国少年柔道競技者育成事業における対面での通常合宿を実施した地区でのみ測定を実施してもらい、データ整理、フィードバックを行った。

(2) 映像情報分析活動

日本スポーツ振興センター（JSC）ハイパフォーマンスサポートスタッフの協力を得て、選手団を派遣したシニアの10大会において試合撮影および編集、分析、選手団への情報提供等を行った。

(3) 研究成果報告書の作成

これまでの研究活動をまとめた柔道科学研究24号を発行した。昨年から電子版のみとしており、今年度も本連盟ホームページでの公開のみとした。

(4) 柔道競技パフォーマンス向上プロジェクト

「柔道競技中の運動強度定量化」の検討を進め「生理的疲労とメンタル指標との関連についての解析」を進めた。新型コロナウイルスの影響もあり、取得データ量が十分ではないが、選手強化に資する情報提供を行った。

(5) 国内ポイントシステムの管理、運用

国内大会および日本選手団を派遣した国際大会におけるポイントを集計し、規程で定めている通り、選手選考の参考として活用してもらうためデータを監督、コーチへ報告した。

(6) メダルポテンシャル要因の抽出に関する研究

日本柔道選手が国際的な競技力を有するまでに至るパスウェイについて、出生月や家族構成などの不可避の要因と、道場へのアクセスのし易さ、生活習慣（食事や睡眠）、および専門化の時期などの可変要因の影響力を評価するための解析を継続した。得られた知見を柔道選手の育成指針として活用していくことを目指す。

5. 国際大会派遣（JOC選手強化NF事業）

5月にカタール・ドーハで開催された世界柔道選手権大会では、混合団体戦を含め、金メダル6個を獲得し、当初の目標は達成することができた。

10月にポルトガル・オディベラスで開催された世界ジュニア柔道選手権大会では、混合団体戦を含め、10個の金メダルを獲得した。新型コロナウイルス禍において停滞していたと言われるジュニア強化活動であったが、今大会では過去最高の成績を残すことができた。

国際大会派遣の派遣数、成績は以下のとおり。

男子 シニア 9件、ジュニア 6件、計 15件

女子 シニア 11件、ジュニア 6件、計 17件

- ① 4/1～2 グランドスラム・アンタルヤ 金1銀1銅0他
- ② 5/7～14 世界柔道選手権大会 金6銀2銅4他7（団体戦含む）
- ③ 5/25～27 グランプリ・アッパーオーストリア 金3銀1銅2他6
- ④ 6/23～25 グランドスラム・ウランバートル 金7銀1銅2他6
- ⑤ 8/4～6 ワールドマスターズ 金4銀1銅6他9
- ⑥ 12/2～3 グランドスラム東京 金7銀5銅4他26
- ⑦ 1/26～28 グランプリ・ポルトガル 金2銀2銅5他12
- ⑧ 2/2～4 グランドスラム・パリ 金3銀2銅3他14
- ⑨ 3/1～3 グランドスラム・タシケント 金2銀3銅6他3
- ⑩ 3/8～10 グランプリ・アッパーオーストリア 金2銀1銅2他13
- ⑪ 3/22～24 グランドスラム・トビリシ 金0銀0銅1他3
- ⑫ 3/29～31 グランドスラム・アンタルヤ 金5銀1銅2他0
- ⑬ 5/6～7 フランスジュニア国際大会 金7銀1銅2他5
- ⑭ 6/3～4 チェコジュニア国際大会 金5銀1銅3他2
- ⑮ 8/23～27 世界カデ柔道選手権大会 金2銀1銅1他5（団体戦含む）
- ⑯ 10/4～8 世界ジュニア柔道選手権大会 金10銀3銅2他4（団体戦含む）
- ⑰ 1/27 ベルギー国際大会（20歳未満） 金5銀1銅1他2
- ⑱ 1/28 ベルギー国際大会（オープン） 金3銀4銅2他2
- ⑲ 3/23～24 ブレーメン国際大会 金2銀1銅2他3
- ⑳ 3/23 チューリンゲン国際大会 金3銀1銅0他4

6. 海外合宿（JOC選手強化NF事業）

前半はワールドマスターズ、ワールドユニバーシティゲームズ、アジア競技大会に向け、海外での合宿に選手を派遣し、外国人対策だけでなく、国際情勢の把握にも努めた。後半はオリンピック内定選手を中心に次年度のパリオリンピックに向けた強化を目的として派遣した。

ジュニアにおいては国際大会に伴って行われる国際合宿に参加し、大会での課題や反省点の改善はもちろんのこと、ジュニア選手にとって外国人選手と接すること、海外での生活における日本との違いを学ぶことで競技力だけでなく精神力の強化にもつながった。

海外合宿地、派遣人数は以下のとおり。

男子 シニア 5 件、ジュニア 3 件、計 8 件

女子 シニア 3 件、ジュニア 5 件、計 8 件

（大会に伴って行われる合宿を含む）

- ① 6/26～7/2 マドリッド合宿（スペイン） 男子 11 名
- ② 7/1～9 ベニドルム合宿（スペイン） 男子 16 名／女子 10 名
- ③ 1/6～14 ミッタージル合宿（オーストリア） 男子 1 名
- ④ 1/29～2/1 ベルギー合宿 女子 12 名
- ⑤ 1/29～2/2 グランプリ・ポルトガル国際合宿 男子 12 名／女子 9 名
- ⑥ 2/5～10 グランドスラム・パリ国際合宿 男子 16 名／女子 1 名
- ⑦ 5/8～12 フランスジュニア国際合宿 男子 7 名／女子 8 名
- ⑧ 6/5～12 チェコジュニア国際合宿 男子 7 名／女子 4 名
- ⑨ 7/3～8 日韓競技力向上交流合宿 女子 20 名
- ⑩ 3/26～31 ブレーメン国際合宿 男子 8 名
- ⑪ 3/24～27 チューリングゲン国際合宿 女子 8 名

7. 国内強化合宿（JOC選手強化NF事業）

シニアにおいては、男子は 9 月まではアジア競技大会に向けた代表選手を中心とした強化および調整合宿を実施した。11 月以降はグランドスラム東京、次年度のオリンピック、世界柔道選手権大会に向けた強化を目的とした合宿を実施した。女子は世界柔道選手権大会が 5 月開催であったため、2 月まで全体合宿は実施せず、ワールドマスターズ、アジア競技大会、オリンピック代表に限定して個別分散合宿を実施した。

ジュニアにおいては、10 月の世界ジュニア柔道選手権大会に向けた強化合宿の実施、また、外国人と練習のできる機会を設けるため、グランドスラム東京後の国際合宿にあわせてジュニア合宿を実施した。

12 月、2 月に競技者育成合宿として全国 10 地区から推薦された小学生を対象とした合宿を実施した。合宿地、人数は以下のとおり。

男子 シニア 5 件、ジュニア 4 件、計 9 件

女子 シニア 2 件、ジュニア 4 件、計 6 件

小学生 2 件

- ① 4/10～15 第 1 回男子（NTC） 17 名
- ② 7/17～22 第 2 回男子（NTC） 9 名
- ③ 9/6～9 第 3 回男子（NTC） 8 名
- ④ 3/4～9 第 4 回男子（NTC） 69 名

- ⑤ 通年 男子個別分散合宿 延 28 名
- ⑥ 9/18～21 第 1 回男子ジュニア（NTC） 19 名
- ⑦ 11/15～18 第 2 回男子ジュニア（講道館） 19 名
- ⑧ 11/30～12/15 第 3 回男子ジュニア合宿（講道館） 45 名
- ⑨ 2/8～12 第 4 回男子ジュニア合宿（天理大学） 33 名
- ⑩ 3/9～14 第 1 回女子（NTC） 23 名
- ⑪ 通年 女子個別分散合宿 延 86 名
- ⑫ 9/16～19 第 1 回女子ジュニア（NTC他） 9 名
- ⑬ 12/1～6 日韓競技力向上交流合宿（講道館） 23 名
- ⑭ 12/11～14 第 2 回女子ジュニア（講道館） 17 名
- ⑮ 2/10～12 第 3 回女子ジュニア（講道館） 26 名
- ⑯ 12/23～25 第 1 回競技者育成合宿（講道館） 20 名
- ⑰ 2/10～11 第 2 回競技者育成合宿（講道館） 59 名

8. 全国少年柔道競技者育成事業（JSCスポーツ振興くじ助成事業）

本連盟競技者育成プログラムに基づき、将来有望な選手の発掘および育成を目的とし、一貫指導システムとして強化選手制度につなげるべく、小中学生を対象に今年度は 10 地区のうち、8 地区で小学生、3 地区で中学生合宿を通常通り実施し、小学生 639 名、中学生 192 名、指導者 239 名が参加した。各合宿における指導内容が統一できるよう、本連盟から技術指導や座学の講師を派遣した。コロナ禍を経て 2 地区で事業自体を実施できていないため、統一した内容で小学生の育成を推進すべく働きかけていく。

各事業は以下の通り。

- ① 7/28～30 関東地区小学生合宿（埼玉県立武道館） 108 名
- ② 7/29～29 中国地区小学生合宿（岡山武道館） 100 名
- ③ 9/16～18 東北地区小学生合宿（秋田県立武道館） 111 名
- ④ 10/7～9 近畿地区小学生合宿（姫路市立総合スポーツ館） 124 名
- ⑤ 10/7～9 北信越地区小学生合宿（県営富山武道館） 106 名
- ⑥ 10/27～29 北海道中学生合宿（北海きたえーる） 45 名
- ⑦ 11/11～12 四国地区小学生合宿（徳島県立中央武道館） 75 名
- ⑧ 11/25～26 九州地区小学生合宿（久留米アリーナ） 142 名
- ⑨ 1/6～8 北海道小学生合宿（北海きたえーる） 51 名
- ⑩ 1/20～21 東海地区中学生合宿（岐阜メモリアルセンター） 84 名
- ⑪ 2/10～11 九州地区中学生合宿（久留米アリーナ） 124 名

(7) 国際委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 2回(11月21日、2月13日)
2. その他、強化委員会派遣外の国際大会(自費参加)等についてメールでの審議、報告等を行った。

【活動報告】

1. 国際委員会派遣

(1) アジア柔道連盟(JUA)総会において、本連盟審判委員長の大迫明伸氏が審判理事に就任し、JUAにおける「JUA審判規程」を策定した他、主にアジアで開催された以下の国際大会に審判責任者として出席した。また、最新のルールについて講習、検討するIJFの審判&コーチングセミナーへ派遣した。

- ① クウェート・アジアオープン(4月28日~29日、クウェート)
- ② 世界柔道選手権大会(5月7日~14日、カタール)
- ③ 東南アジア競技大会(5月13日~16日、カンボジア)
- ④ キルギス・アジアオープン(6月10日~11日、キルギス)
- ⑤ チャイニーズタイペイ・アジアオープン(7月1日~2月、チャイニーズタイペイ)
- ⑥ カデ・ジュニアアジアカップ・香港(7月15日~16日、香港)
- ⑦ カデ・ジュニアアジアカップ・マカオ(7月22日~23日、マカオ)
- ⑧ 東アジアユース競技大会(8月17日~18日、モンゴル)
- ⑨ アジア競技大会(9月24日~27日、中国)
- ⑩ カザフスタン・アジアオープン(10月7日~8日、カザフスタン)
- ⑪ アジアカデ・ジュニア柔道選手権大会(11月16日~19日、ウズベキスタン)
- ⑫ 香港・アジアオープン(11月25日~16日、香港)
- ⑬ チェジュカップ(12月12日~14日、韓国)
- ⑭ IJF審判&コーチングセミナー(1月20日~21日、ハンガリー)

(2) 神谷宣広氏が、IJF医科学委員として下記の大会等に参加し、選手が安心して試合に臨めるような環境づくりに尽力した。

- ① グランドスラム ウランバートル(6月23日~25日、モンゴル)
- ② ヨーロッパ柔道連盟医科学委員会(11月22日~23日、トルコ)

(3) 10月23日にサウジアラビアで開催された世界コンバットゲームに、IJFからの要請で男女各3名の選手とコーチ、トレーナー各1名の計8名を派遣した。

3. 国際交流派遣

(1) 山下泰裕IJF理事が以下の大会等に出席して、IJFや開催国の関係者と意見交換を行った。

- ① アジア柔道連盟 総会(4月26日、クウェート)
- ② 世界柔道選手権大会(5月7日~14日、カタール)
- ③ ワールドマスターズ(8月4日~6日、ハンガリー)

世界柔道選手権大会には細川伸二IJFコーディネーション委員会ディレクター、山田利彦国際委員長も出席してIJFや開催国の関係者と意見交換を行った。

(2) 細川伸二IJFコーディネーション委員会ディレクターは、ワールドマスターズ、審判&コーチングセミナー、グランドスラム・パリにも出席し、特に審判&コーチングセミナーではIJF審

判理事をはじめ多くの関係者と審判規程の改正について意見交換を行い、パリオリンピック後の規程改正について議論する機会となった。

4. 受入事業

(1) I J Fアカデミー(9月24日～10月1日、講道館)

2022年度に続き2回目の実施となるI J Fアカデミーの実技講習を講道館で開催し、日本人2名を含む計14名が参加した。

(2) 海外ナショナルチーム受入

新型コロナウイルスが終息して、海外の柔道連盟から日本での練習希望が多く届き、要望に応えるため各大学や企業の柔道部と調整を図って、本年度は41か国と地域から延べ758名の選手の受け入れを行った。

(3) 国際合宿(12月4日～15日、講道館)

グランドスラム東京の後に国際合宿を開催し、日本での練習希望が多いため合宿期間を前年の5日間から12日間に延長して実施した。

1週目はグランドスラム東京に出場した選手を含む60か国・地域から667名を超える選手・コーチが参加し、2週目は41か国・地域から383名が参加した。

日本からも全日本実業柔道連盟や全日本学生柔道連盟等に広く声掛けを行った結果、2週合計で述べ1,600名を超える選手が参加した。

5. 国際育成事業

I J F等の国際大会で審判員として活躍できる国際審判員を育成するため、対象審判員2名に英語教育を行った。

6. 国際貢献事業

認定特定非営利活動法人JUDOs及び外務省の協力を得て、途上国に対して以下の通りリサイクル柔道衣及び畳を供与した。

①柔道衣910着(アルゼンチン、ボツワナ、ミャンマー、ブータン、ウクライナ、ネパール、
ナイジェリア、ブルンジ)

②柔道畳146.5枚(アルゼンチン、ミャンマー)

(8) 医科学委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 3回 (4月20日、5月23日、12月19日)
2. 正副委員長会議 1回 (2月26日)
3. アンチ・ドーピング部会 2回 (8月30日、11月7日)

【活動報告】

1. 医科学委員会の開催と主な議題

(1) 4月20日開催

- ①年度活動計画と予算について
- ②5月8日に新型コロナウイルスが5類に移行するにあたり、委員会としての新たな対応指針
- ③アンチ・ドーピング部会から部会員の増員とアウトリーチブース等の今年度活動計画について

(2) 5月23日開催

- ①委員10名で開催した上記第1回委員会での報告事項、審議事項について特別委員とも共有
- ②新型コロナウイルス5類移行後の対応指針 Ver. 7について
- ③医科学研究会、救護担当者講習会、救護を要する大会スケジュール、世界選手権大会帯同報告、女子柔道選手のコンディショニング研究等についての報告

(3) 12月19日開催

- ①2024年1月以降の新体制について (副委員長の交代と3名体制。委員3名交代)
- ②協力委員の体制強化と情報共有依頼
- ③今期研究の進捗状況と来期計画
- ④転倒外傷予防指導員資格の新設
- ⑤今期活動報告 (医科学研究会、救護担当者講習会、グランドスラム東京、アンチ・ドーピング部会、各地域からの活動報告)

2. 柔道医科学研究事業と各種啓発活動

- (1) テーマ別担当ごとの研究課題を計画通り実施し、各種学会・研究会等で報告した。

担当者	プロジェクト名
井汲彰	柔道による肘関節外傷に関する研究
井汲彰	大会救護の実態評価
稲川郁子	柔道整復師養成施設における標準予防教育の実態調査
紙谷武	やわらちゃん体操の全国普及活動及び転倒リスクにおける検討
紙谷武	柔道による重症頸部外傷に関する研究
神谷宣広	柔道の絞技の「落ち」に関する意識調査
木内正太郎	絞め技による意識消失の病態と対応に関する研究
柵山尚紀	絞め落ちの活法における現代救護への応用の検討
柵山尚紀	女子柔道選手における試合前のコンディショニングの実態調査
佐々木英嗣	柔道選手における膝前十字靭帯損傷の受傷機転調査
田邊 誠	少年柔道における肘関節障害の実態解明と予防

松永大吾	七大学戦アーカイブスを用いた絞め落ちの研究
三上靖夫 (柵山尚紀)	新型コロナウイルス感染症の柔道大会開催における感染対策及び COVID-19 健康調査と PCR 検査の有用性の検討
宮崎誠司	頸部外傷発生防止を考えるバイオメカニクスの研究

(2) 論文発表

◎Incidence of anterior cruciate ligament injury patterns in Japanese judo players from a nationwide insurance database. Sasaki E, Kamitani T, Kinouchi S, Kamiya N, Ikumi A, Tateishi T, Miyazaki S, Ishibashi Y, Nagahiro S. Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol, 33:6-12, 2023.

◎Characteristics of severe judo-related neck injuries in japan. Kamitani T, Hattori S, Takami H, Ikumi A, Sakuyama N, Kurogi S, Yoneda M, Miyazaki S, Mikami Y. The arts and sciences of Judo, 3:35-38, 2023.

◎Efficacy of Health Surveillance and Polymerase Chain Reaction Testing in Judo During the COVID-19 Pandemic. Sakuyama N, Fujita N, Ikumi A, Miura M, Nagahiro S, Mikami Y. Cureus, 16:e5789, 2024 (DOI: 10.7759/57898).

◎柔道整復師における標準予防策遵守の重要性：出血への応急処置に基づく考察. 稲川郁子 柔道整復接骨医学, 印刷中.

(3) 安全講習会の開催 (医科学委員会主催以外で委員が講師として行った啓発活動)

日付	会議名	主催者	講師	講義テーマ
7/2, 12/10	指導者安全講習会	秋田市	和田誠之	安全指導全般、過去の事件事例など
9/2, 10/28	倫理安全講習会	滋賀県柔道連盟	三上靖夫	絞技のトピックス、頭頸部外傷、熱中症
10/28	倫理安全講習会	滋賀県県高体連	三上靖夫	絞技についてのトピックス、頭部頸外傷
11/12	公認指導者 (C 指導員) 養成講習会	静岡県柔道協会	稲川郁子	救急処置 I
11/19	指導者安全講習会	兵庫県柔道連盟	田邊 誠	柔道の安全指導 スポーツ現場での救護 頭頸部外傷 熱中症
11/26	公認指導者 (C 指導員・準指導員) 養成講習会	茨城県柔道連盟	井汲彰	安全管理・指導 I、救急処置 I
12/9	第 6 回全国安全指導員連絡会	全柔連重大事故総合対策委員会	松永大吾	柔道重大事故 最近の動向

3. 第 10 回柔道医科学研究会の開催

(1) 大江裕一郎柔道医科学研究会会長のもと、講道館において 7 月 29 日に対面で開催した (参加者 70 名)。

(2) 会長講演 (大江会長) : 「全日本柔道連盟でのアンチ・ドーピング活動」

基調講演 (宮崎伸一特別委員) : 「競技性の高い ID 柔道の現状と今後の展望」

(3) シンポジウム : 「女子アスリートにおけるコンディションチェックの現状と課題」

演者 : 能瀬さやか氏 (国立スポーツ科学センター) 「女性アスリートの月経対策の現状について」

稲川郁子特別委員 (日本体育大学) 「競技柔道引退後の女性柔道家の実態調査」

寺崎綾音特別委員（独協医科大学）「女性柔道選手の減量・月経がコンディションに与える影響と指導者の理解力についての実態調査」

(4) 一般演題 17 題

4. 救護担当者講習会の開催

- ・第1回 7月30日 10時～12時30分、会場：講道館（東京都）
受講者数：43名（医師、歯科医師、柔道整復師、アスレチックトレーナー、看護師など）
- ・第2回 10月8日 10時～12時30分、会場：灘中学校・高等学校（兵庫県）
受講者数：70名（医師、柔道整復師、アスレチックトレーナー など）
内容：第Ⅰ部 講義①規則・規定・大会運営、②止血、③外傷初期治療
第Ⅱ部 実技①止血、②搬送訓練
講師：宮崎誠司委員、田邊 誠特別委員、井汲 彰委員

5. アンチ・ドーピング活動

- (1) ID柔道強化選手に対するアンチ・ドーピング講習会（9月7日）オンライン
講師 柵山尚紀委員 参加者 18名（選手、トレーナー、コーチなど）
- (2) 強化選手に対する WADA 変更点に関する講義
講師 柵山尚紀委員 参加者 女子 30名（12月23日）、男子 33名（3月6日）
- (3) アンチ・ドーピングに関する啓発動画の作成
主要大会の参加者全員（選手及び指導者）に、連盟ホームページの大会参加申込ページから YouTube で視聴できる仕組みを 2020 年秋より導入、2024 年 3 月にアップデートした。
- (4) 日本アンチ・ドーピング機構承認 Educator の育成 柵山尚紀委員が資格取得

6. 強化選手の医学的支援

- (1) 2022 年度と同様に 9 名体制でのチームドクターで活動を行い、本年度は国際大会 5 大会（世界選手権大会 2 名、世界ジュニア選手権大会 1 名、世界カデ選手権大会 1 名、ワールドユニバーシティゲームズ 1 名、ワールドマスターズ 1 名）と国内開催の国際大会 1 大会（グランドスラム東京 2 名）にドクターを派遣した。
- (2) 全日本強化合宿にチームドクターとして帯同し、代表選手の合宿中の医学的支援を実施した。
- (3) 12 月 1 日にチームドクターミーティングを実施し、2023 年度のチーム帯同報告を通じ、次年度に向けた課題の抽出や改善策について議論した。（参加者 9 名）

7. 大会での救護担当医・感染対策マネージャー派遣

	大会名	救護医師	感染対策 マネージャー	救護看護師
4月23日	全日本女子柔道選手権大会(横浜武道館)	3名	1名	1名
4月29日	全日本柔道選手権大会(日本武道館)	3名	1名	1名
6月10日	全日本柔道形競技大会(講道館)	1名		
8月6日	全国高等学校定時制通信制柔道大会(講道館)	2名		
8月27日	全日本小学生柔道育成プロジェクト(横浜武道館)	1名		
9月9日10日	全日本ジュニア柔道体重別選手権大会(埼玉県立武道館)	延べ6名		延べ2名
11月4-5日	講道館杯全日本柔道体重別選手権大会(千葉ポートアリーナ)	延べ12名		延べ2名
12月2-3日	グランドスラム東京(東京体育館)	延べ12名		延べ4名

12月16日	文武両道杯全国高校柔道大会(講道館)	1名		1名
12月20-21日	日本ベテランズ国際柔道大会(講道館)	延べ4名		1名
2月24-25日	全日本シニア柔道体重別選手権大会(大浜だいしんアリーナ)	延べ7名		
3月19-20日	全国高等学校柔道選手権大会(日本武道館)	延べ8名		延べ2名
3月23-24日	柔道マガジン杯全国中学生柔道大会(横浜武道館)	延べ6名		延べ2名

(9) アスリート委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 2回 (7月10日、1月23日)
2. 委員長副委員長会議 1回 (9月6日)
3. ワーキンググループ 2回 (1月30日、2月10日)
4. 意見交換会 2回 (9月8日、10月16日)
5. 懇親会 1回 (1月23日)

【活動報告】

1. 「2023 ドーハ世界柔道選手権大会」選手団のプロフィールカード制作
ドーハ世界選手権大会の告知および交流ツールとして、個人戦出場選手18名および監督2名のプロフィールカードを制作した。
2. 各種柔道教室およびイベントへの講師派遣
各種柔道教室およびイベントの実施に際して、講師の選定を行い、総勢6名の講師を派遣した。派遣講師は以下の通り。

7月16日(日)	未経験者・初心者向け柔道教室	羽賀龍之介・中村美里
8月27日(日)	全日本小学生育成プロジェクト	王子谷剛志・中村美里
10月8日(日)	ころび方&体づくり教室	吉田優也・七戸龍・角田夏実

3. 「グランドスラム東京」各種イベント実施
大会期間中、会場内にて抽選で当選した30名を対象としたサイン会を実施した。サイン会参加者は下記の通り。

12月2日(土)	大野陽子・羽賀龍之介・大野将平
12月3日(日)	田中志歩・新井万央・橋本壮市・村尾三四郎

大会2日目には、決勝ラウンド開始前に「パラ柔道×アスリート委員会デモンストレーション」と題し、2024パリ・パラリンピック競技大会に向け、視覚障害者柔道のルール紹介や中学生選手とアスリート委員によるエキシビジョンマッチ等を行い、競技の魅力を発信した。

また、「ディスカバリーBOX」購入者を対象として、表彰台・ミックスゾーン・練習会場等を見学するバックヤードツアーを実施した。

4. ウクライナ柔道支援オークションの実施
ウクライナ柔道の将来を担うカデ・ジュニア選手団を日本に招待し、選手たちの夢を応援することを目的として、オンラインオークションを実施した。12月にウクライナのカデ・ジュニア世代の選手18名が来日した際には、技術指導・交流の場を設けた。

(10) コンプライアンス委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 1回 (12月6日)
2. 正副委員長会議 (2月7日)
3. コンプライアンス講習ワーキング・グループ会議 (6月6日)

【活動報告】

1. コンプライアンス委員会

- ・8月の全国高等学校柔道大会、全国中学校柔道大会において実施したコンプライアンスアンケートの結果について意見交換を実施した。
- ・対象は大会全参加者で、周囲を気にせず回答できるようオンラインで回答できるよう実施し、回答数は指導者 208 件、競技者 381 件あった。
- ・暴力、セクハラ、パワハラを経験した（行った、被害を受けた、見聞きした）件数は、2013年、2017年に実施した時より減少しているが、一部には勝利至上主義から暴力は無くならないのではないかとの見方が指導者、競技者ともに残っており、引き続き講習等により徹底を図っていく必要性を確認した。

2. コンプライアンス強化事業

コンプライアンス・ホットラインの存在を連盟ホームページや大会パンフレット等に掲載して周知を図り、一層の利用促進を呼びかけた。

3. コンプライアンス講義の実施

下記の通りコンプライアンス講義を実施した。

- ①秋田県 (4月23日、オンライン。講師：向井委員)
- ②広島県 (6月25日、対面。講師：本郷副委員長 (当時))
- ③山形県 (3月17日、対面。講師：本郷委員長)

4. コンプライアンス調査の実施

本連盟として調査を実施した事案はなかった。

(11) 重大事故総合対策委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 5回（4月19日、9月6日、11月14日、12月9日、3月25日）
2. 部会 メール対応

【活動報告】

1. 年度初めの事故防止・安全指導の周知徹底
 - (1) 小・中・高校生の事故防止・安全指導
従来は安全講習会の実施計画と実施報告を提出することとしていたが、今後は実施報告のみをインターネットを活用して提出することとして効率化を図った。
 - (2) 年度初めの事故防止啓発強化期間の設定
強化期間（4月～7月）における事故報告は5件あり、準重大事故も発生した。
2. 地域安全講習会への出前講習
 - (1) 東京都高体連（4月9日）、秋田県（4月23日）、長野県（12月10日）で計3回実施した。
 - (2) 講習会はオンラインおよび対面で実施した。*秋田県は対面で実施
 - ・東京都高等学校体育連盟（磯村）、秋田県柔道連盟（三戸）、長野県柔道連盟（松永）
3. 第6回全国安全指導員連絡会の開催
 - (1) 12月9日にオンライン形式で第6回全国安全指導員連絡会を以下の内容で実施した。
 - ・「重大事故の最近の動向」 松永大吾委員の講習
 - ・全国柔道事故被害者の会代表 倉田久子氏の講演
 - ・指導者 阿部高弘氏（新潟県 阿部塾）による講演
 - ・危険な場面映像資料：少年大会特別規程編 三戸範之委員の動画解説
 - (2) オンライン形式で各都道府県から5名までの参加として約100名が参加した。
 - (3) 各都道府県へ「第6回全国安全指導者連絡会」のアンケート調査を実施し、43都道府県82名から回答があった。
4. 都道府県柔連の安全講習会の実施報告の内容分析及び報告書の作成
都道府県柔連の安全講習会の実施報告の内容を分析して報告書にまとめた。
5. 事故防止・安全指導の資料集の作成
 - ・危険な場面映像資料：少年大会特別規程編を作成した。
 - ・長期育成指針に基づく安全講習資料「重大事故ゼロを目指して」を作成した。
6. 安全指導資料の増刷と配布
「柔道の安全指導」第6版を3,000部増刷して、各都道府県の各種講習等で配布した。
7. 事故調査の実施
本年度は重大事故についての調査は実施しなかった。

(12) 女子柔道振興委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 4回（6月7日、9月27日、12月15日、2月21日）
2. 委員長・副委員長・主査会議 2回（10月27日、1月17日）

【活動報告】

1. 女子柔道振興委員会

会議では2023年度の事業計画に基づき、以下内容を議論・協議した。

- ①女子柔道意見交換会の開催
- ②女子柔道キャリアアップセミナーの開催
- ③COMEBACK 女子柔道プロジェクトの開催
- ④JJ Voice リレーコラムの運営
- ⑤各都道府県における女性役員の登用推進のための状況調査
- ⑥各都道府県における女子委員会等の設置に関する状況調査
- ⑦柔道における女性の活躍推進プランに沿った諸検討
- ⑧次年度への課題抽出

各事業を事業計画通りに進めると共に、各都道府県における女性役員の登用状況、女子柔道に関する委員会等の設置状況を調査し、評議員会・理事会等で結果を公表して女性役員登用や女性委員会の設置を促した。前年度と比較すると女性役員は8都道府県で増加が見られ全国の総数は128名となった。女子柔道に関する委員会は、新たに2県で設置され41都道府県において設置済みとなった。

2. 女子柔道意見交換会

11月25日にオンラインにより女子柔道意見交換会を実施した。42都道府県から52名の参加があり活発な意見交換を行うと共に、女子柔道の機運を高める機会となった。柔道における女性の活躍推進プランにも明記されている女性リーダーの育成につながるよう、有識者による講演や各地でのCOMEBACK 女子柔道プロジェクト活動報告、「女性が輝く柔道界を目指して私達ができること」をテーマとしたグループディスカッション、全体ディスカッション等を行った。

3. 女子柔道キャリアアップセミナー

7月15日にオンラインで女子柔道キャリアアップセミナーを開催し、全国26大学から約300名が参加した。4名の講師から柔道を通しての経験談、指導者資格、審判員資格等それぞれのテーマで講演・説明を行った。オンライン形式を採用することで全国各地からの参加者を得ることができた。

4. COMEBACK 女子柔道プロジェクト

様々な理由で柔道から離れた女子柔道経験者や初めて柔道に触れる女性をターゲットとした各都道府県が主催する各種イベント（女性柔道交流会、親子柔道教室、女子柔道フェスタ等）を公募し、宮城県、山形県、東京都、新潟県、石川県、京都府、大阪府、岡山県、山口県、愛媛県、関東地区以上11件を採択し、補助金による事業支援を行った。

5. ホームページを利用した女子柔道に関する情報集約及び発信、JJ Voice リレーコラムの展開

JJ Voice リレーコラムを定期的なペースで更新し18名のコラムを掲載した。またホームページの他、本連盟公式SNSでも更新情報の周知を行った。その他、COMEBACK 女子柔道プロジェクトの公募周知および開催報告書の掲載を行った。

(13) 指導者養成委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 3回（8月22日、12月5日、1月25日）
2. 委員長副委員長会議 4回（6月13日、11月9日、1月5日、2月16日）

【活動報告】

1. B指導員養成講習会・モニタリングの実施
都道府県において36回のB指導員養成講習会を行った。運営費助成金を補助するにあたり、報告書、精算書等の確認を行った。モニタリングは1件（鳥取県）実施した。
2. Cおよび準指導員養成講習会・モニタリングの実施
都道府県において42回のC指導者養成講習会を行った。運営費助成金を補助するにあたり、報告書、精算書等の確認を行った。モニタリングは実施しなかった。
3. 全国指導者資格研修会
2024年度登録システムのリニューアルに伴い、各都道府県代表者を対象に登録システムおよび指導者資格制度規程改正の説明会を東京都、福岡県の2か所で実施した。
4. 公認指導者資格の取得推進のための広報活動
公認指導者資格の取得を推進するための広報活動を各種事業で（セミナー、大会等）で実施する予定だったが中止とした。
5. 指導者養成カリキュラム改善に関する事業
2025年度からの改正に向け、素案の作成を進めている。
6. 中央指導者資格審査委員会
A指導員の認定を行い、対象者54名中52名が合格した。
7. 日本武道館との共催事業
全国中学校（教科）柔道指導者研修会は都道府県から参加者を各2名ずつ募集し、34名が参加して充実した内容で実施できた。2024年度は状況を確認しつつ、通常通り実施できるよう準備を進めていく。
8. A指導員養成講習会
 - （1）2023年度同様にオンデマンド講習、同時双方向型（オンライン）講習、対面講習（3日間）で実施した。対面講習は東京都、福岡県の2か所で開催した。
 - （2）61名が受講し、集合講習まで終了した54名が検定試験を受けてレポート提出をした。（うち2名は不合格）
9. スポーツ庁委託事業「武道等指導充実・資質向上支援事業」
 - （1）安全で楽しい柔道授業ガイドの増刷を行った。安全な授業ができるよう継続的に検討していく。
 - （2）2024年度も委託申請を行い、各事業を進めていく。

(14) ブランディング戦略推進特別委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 3回（7月20日、12月7日、12月21日）

【活動報告】

1. ライブ配信

大会映像をハイクオリティで撮影し、迫力ある試合の魅力を発信した。柔道競技経験者以外でも観戦しやすいよう、一部の大会では解説音声を付けて配信した。

2. 動画コンテンツ制作

柔道の魅力を発信するため、動画コンテンツの制作、発信を行った。グランドスラム東京の開催にあたっては大会告知、チケット販売促進を目的とし、事前プロモーションを積極的に行った。

3. 連盟事業の発信

長期育成指針の普及について検討し、グランドスラム東京におけるイベント実施等を実施した。

(15) 全国少年柔道協議会（少柔協）中央委員会

【会議の開催】

1. 全体会議 1回（1月11日）

【活動報告】

1. 小学生への適切な指導法の提言

長期育成指針の課題を踏まえ、ステージ1（0～5歳）、ステージ2（6～11歳）に該当する年少者、小学生へのあるべき指導について検討した。

2. 未経験者（幼年児）への働きかけ

教育普及・MIND委員会（教育普及部会）との協働による子ども転び方ワーキング・グループを継続展開し、標準的な指導マニュアル「受け身のススメ」を作成し、連盟ホームページに公開した。また、年少者が興味・関心を高められる用具、表示の工夫やパンフレット、絵本の作成等について検討した。

3. 小学校（授業）への働きかけ

秋田県柔道連盟、和歌山県柔道連盟、島根県柔道連盟と連携して、小学校教員、外部指導者向け講習会を実施した。また、東京都台東区、杉並区、小金井市、八王子市等で教員向け転び方指導講習会を実施し、指導法の改善を図った。

秋田県柔道連盟と連携して授業内容を紹介する映像資料を作成し、指導計画と合わせて全柔連TVに公開した。

4. 「白石基金」表彰

都道府県柔道連盟より5団体の推薦があり、運営選考委員会にて審議し承認された。

表彰団体となった各道場には都道府県柔道連盟を通して奨励金10万円と表彰盾を贈呈した。

(16) 事務局普及事業

【会議の開催】

1. 道場わっしょい 3回 (5月23日、6月30日、9月6日)
2. 寝技錬成会 1回 (12月22日)
3. もう一度柔道プログラム 3回 (1月15日、5月28日、11月26日)
4. 柔道学童保育実施のための検討会 10回 (4月7日、5月23日、6月8日、7月27日、9月4日、10月23日、11月9日、1月16日、2月28日、3月27日)
5. 渋谷区防災キャラバンイベント 転倒予防ブースの出展 2回 (8月24日、10月4日)
6. 矯正局普及事業 2回 (10月27日、11月30日)
7. 公認転倒外傷予防指導員資格制度 1回 (2月2日)

【活動報告】

1. 道場わっしょい
9月17日に愛媛県武道館で開催し、愛媛県内の道場を中心に18チーム(129名)が参加した。本大会では、道場対抗別の団体戦を行い、柔道を通じ親子の絆を深めることおよび道場間交流促進、少年柔道の発展・普及活動を行った。道場対抗戦では、通常の柔道の試合とは異なり、礼儀作法や受身、えび・しぼりレースなど日々のトレーニングで行っている種目をアレンジした対戦競技が行われ、先鋒から大将戦まですべて違う内容で実施した。普段の試合ではなかなか力を発揮できない選手でも、たくさん活躍ができる場があり、参加した選手のみならず会場中に沢山の歓声や笑顔があふれていたのが印象的であった。
2. 寝技錬成会
1月27日に第2回寝技錬成会を開催した。昨年度実施したアンケート結果を踏まえ、ルールや階級等も見直した上で、関東近隣の大学に参加を募り、男女併せて88名の選手が参加した。階級については男女共に4階級で行い、普段の試合では中々見ることができないような寝技の緻密な技術、攻防が展開された。今年度までは参加者を大学生に限定し開催したが、参加者層を広げるため、来年度以降は大学生に限定せず、一般の部も設けるなど、より多くの選手に参加していただくとともに、一度柔道から離れてしまった人でも参加しやすい錬成会を目指す。
3. メダリスト中学校武道(柔道)授業支援事業
柔道専門指導者不在の公立中学校を対象に、保健体育科武道(柔道)授業に講師としてオリンピックメダリストを派遣した。本事業では、授業で礼法や受身・技の技術を、メダリストが生徒に向けて指導を行った他、生徒のみならず担当教員にも柔道指導の技術向上を目的として行った。今年度は、各都道府県から公募のあった計43校で実施され、生徒・教員共に、メダリストからの実技指導を経験し、柔道を身近に感じてもらうとともに、柔道に対する興味・関心を深めていただいた。本事業については、来年度も引き続き実施予定である。
4. もう一度柔道プログラム
過去に柔道を経験しており、現状柔道から離れてしまっている中高年層を対象として、安全に柔道の復帰ができるよう、プログラムを作成中である。
2023年度は計3回、ワーキンググループメンバーが講道館に集まり、もう一度柔道プログラム検討会を実施した。実際に柔道衣を着て身体を動かしながら、医科学的根拠に基づき、プログラムにはどのようなものを採り入れたら良いか、また怪我や身体的リスク等を考え、段階的に復帰できる年齢層

のレベルに合ったプログラムを作成する必要があると課題が挙げられた。本事業は、来年度中にプログラムを完成させ、実際に作成したプログラムに沿って、練習会を開催する予定である。

5. 七割柔道クラブ

「無理をしない、無理をさせない」をコンセプトに掲げ、安全かつ楽しく柔道を行いながら健康増進を図ることを目的とし、毎月 1 回程度講道館で練習会を開催した。初回の練習会では十数名の参加者であったが、HP や SNS 等の情報発信や口コミにより、参加者は約 60 名程度まで増え、毎回賑やかな雰囲気の練習会となっている。参加者向けに実施したアンケートも好評で、「楽しかった、また参加したい」という回答が多数寄せられた。

本事業は来年度も引き続き実施する予定である。

6. 柔道学童保育実施のための検討会

2024 年 4 月から開始予定の学童保育事業に向け、月に 1 回程度会議を開催した。主に運営体制や実施内容、緊急体制や収支等について検討し、開所に向けて準備を進めた。本事業は来年度 4 月から実施する予定である。

7. 渋谷区防災キャラバンイベント 転倒予防ブースの出展

11 月 18 日に渋谷区広尾中学校で行われた渋谷区防災キャラバンイベントに、本連盟から転倒予防ブースを初出展した。近年転倒した際に手をつくことができず、顔や後頭部を打ち怪我をしてしまう事案が増加している傾向があることから、災害時・非常時に備え、安全な転び方（受身）のデモンストラクション・レクチャーを行い、来場者の方々に体験していただいた。また、転倒リスク測定装置を活用し、自身の転倒リスクや 転倒傾向について知る機会にもつながったのではないかと考える。

8. 矯正局普及事業

矯正局の施設を活用し、地域の子供たちへの柔道指導、少年院施設でメダリストによる講話ならびに安全な転び方の指導を行うための検討会議を実施した。本事業では、柔道の興味や関心を高めるとともに、少年院施設に入所している少年の更生支援を目指す。

9. 公認転倒外傷予防指導員資格制度の制定

公認転倒外傷予防指導員資格制度を制定し、資格の運用規則を作成した。2024 年 10 月に実施予定の当該資格養成講習会に向けて、養成講習のカリキュラムならびに教材の作成に取り組んでいる。

事業報告 附属明細書

2023 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。